

# 京都で宇都宮と百人一首を探す!

## 百人一首の成立に関わった宇都宮頼綱



宇都宮頼綱(蓮生)像(三鈷寺蔵)

よりつな れんしょう  
宇都宮頼綱(蓮生)

鎌倉幕府の有力な御家人であった宇都宮氏は、5代城主の宇都宮頼綱のときに執権の北条氏と親戚関係になり、幕府の中で力をつけていきました。しかし、頼綱は幕府に謀反の疑いをかけられ、その疑いを晴らすために剃髪して出家し仏門に入ることになりました。

蓮生と名前を変え京都に住んだ頼綱でしたが、出家後も鎌倉幕府に仕え、息子である第6代泰綱や孫の第7代景綱を支えていきました。

京都で探せる、宇都宮氏ゆかりの地や、百人一首の成立に深く関わった場所を紹介しますね。

修学旅行などで京都に行くときや、社会科の歴史の授業の参考にしてください!!



宇都宮百人一首マスコットキャラクター みやびい

## 蓮生と藤原定家の関係

京都に行った蓮生は、当時の有名な歌人である、藤原定家から和歌を教えてもらいました。蓮生の娘と定家の息子(為家)は結婚し、藤原家と宇都宮家は親戚関係になりました。左の和歌のやりとりから、二人の関係を読み解くことができます。

定家が宇都宮への旅の安全を祈る和歌を蓮生に送り、蓮生がそれに対して感謝の気持ちを、和歌にしたため定家に返しています。

二人の仲の良さがよく分かる和歌のやりとりです。



蓮生と藤原定家の和歌のやりとり

(あづまへまかりける人に)

ゆく人の又あふ坂の関ならば 手向けの神を猶やたのまん

前中納言定家

(返し)

あふさかの関もる神にまかせても 名こそ手向けのたのみ也けり

蓮生法師

あふ坂の関...「逢坂の関」は逢坂山にあった関所。東国から京都の出入り口にあたる。

手向けの神...山の峠や村落の境界にあって、よそ者の侵入を防ぐ神。旅の安全を守る神。

(宇都宮に行ってしまう人に)

行ってしまおうよ、また逢いましょう。宇都宮に帰るのに逢坂の関を越えるので、神様に旅の安全を頼んでおきましょう。

(返し)

逢坂の関を守る神に任せます。手向けの神と評判の神様に頼んでくれてありがとうございます。

前中納言定家

蓮生法師



# 京都嵯峨嵐山で百人一首と蓮生ゆかりの地をめぐる

## えんりあん 厭離庵

定家の山荘があったといわれている場所の一つ。ここで百人一首を撰したといわれています。期間以外は非公開となっています。



## ちゅういんさんそうあと 中院山荘跡

蓮生の山荘があったといわれる場所。蓮生は、ここにあった山荘の障子に貼る色紙歌を定家に依頼しました。現在は看板のみが設置されています。



定家の日記「明月記」に、蓮生からの色紙歌の依頼について書かれています。

嘉禎元年 五月二十七日(己未)

(略)嵯峨中院障子の色紙形、故に予に書くべき由、彼の入道懇切なり。極めて見苦しき事と雖も、慙に筆を染めて之を送る。古来の人の歌、各一首、天智天皇より以来、家隆、雅経に及び。(略)

この時定家によって選ばれた色紙歌は「百人秀歌」と考えられます。これが後に、後鳥羽院や順徳院の歌などを加えて整理されて、小倉百人一首の原形になったといわれています。

## にそんいん 二尊院



定家の山荘があったといわれている場所の一つ。本堂の後ろの山は、「小倉山 峰のみみじ葉 心あらば今一度の 行幸待たなむ(貞信公)」で有名な小倉山です。

## じょうじゃっこうじ 常寂光寺



定家の山荘があったといわれている場所の一つ。ここには、「藤原定家山荘跡」、「小倉百人一首編纂之地」と書かれている石碑があります。

嵯峨嵐山に行くには、まず京都駅からJR山陰本線(嵯峨野線)に乗り嵯峨嵐山駅で降ります。次にトロッコ嵯峨駅に移動し、嵯峨野観光鉄道のトロッコ電車に乗ってトロッコ嵐山駅で降りれば、そこは竹林が広がる「百人一首発祥の地」嵯峨嵐山! 蓮生と百人一首を感じながら、散策してくださいね。

<参考情報>

京都駅→嵯峨嵐山駅 所要時間約15分間 料金 240円  
トロッコ嵯峨→トロッコ嵐山 所要時間約3分間 料金 620円  
※トロッコ電車は、お休みの日がありますので、事前に調べておきましょう。

## ふじわらためいえのはか 藤原為家の墓



厭離庵の東側の公園に、藤原定家の息子、為家の墓があります。為家は、蓮生の娘と結婚したので、蓮生の義理の息子にあたります。為家も歌人として有名で、数々の和歌集を選びました。

## ほうねんじ 法然寺



頼綱が蓮生と名を改めた後、法然上人の弟子となりました。嵯峨にある法然寺は、その法然上人の弟子が建立した寺です。頼綱(蓮生)は、法然寺に二代目住職(法然寺二世)として関わり、現在でも、「宇都宮弥三郎頼綱公木像」が伝えられています。





# 京都で探す宇都宮氏ゆかりの地

## うつのみやていあと 宇都宮邸跡



蓮生が移り住んだ京都には、錦市場の錦小路と麩屋町通りの交差した地点に宇都宮氏の邸宅があったといわれています。残念ながら、現在はその跡地を見つけることはできません。

また、北へ約1kmの場所には、定家の本邸宅があったといわれている京極邸跡があり、現在は「此付近藤原定家京極邸址」という石碑があります。

- 『明月記』 嘉禎元年閏6月「錦小路富小路、所縁の入道宅の門焼くと云々」  
※当時の富小路は、今より東側にあり、現在の麩屋町通りの場所と考えられています。
- 京極邸跡…現在の寺町通の西側にあります。(住所 京都市中京区妻法師前町716付近)

## さんこじ 三鈷寺



出家した蓮生は、法然上人の弟子となり、その後は證空上人の弟子となりました。證空上人は亡くなった後、三鈷寺に祀られたため、蓮生は三鈷寺にとどまり、供養を続けました。三鈷寺には、表紙で使われている「宇都宮頼綱（蓮生）像」、蓮生ゆかりの仏像である「抱止阿弥陀如来」、蓮生の念持仏である「金銅如来坐像」、蓮生の墓碑などが現在も残っています。

(三鈷寺 住所 〒610-1134 京都市西京区大原野石作町1323)

# 宇都宮歌壇と蓮生



紙本墨書新式和歌集(宇都宮打聞)  
〔二荒山神社蔵〕



※ 藤原為氏が宇都宮に来たときに選んだもので、「新式和歌集」という名前でしたが、ある事情があって一字が除かれ、「新〇和歌集」と呼ばれるようになりました。

宇都宮では、歌会が頻繁に開催され、京都と鎌倉に次ぐ、和歌の文化が花開きました。宇都宮からも多くの歌人が生まれ、宇都宮歌壇と呼ばれました。宇都宮一族の和歌を中心にまとめられたのが「新〇和歌集」で、蓮生と定家の孫にあたる藤原為氏によって編纂されました。京都や鎌倉を代表する歌人が名を連ねており、宇都宮一族の文化レベルの高さを表しています。これら宇都宮歌壇の基礎を作り上げたのも、もちろん蓮生なのです。

今回紹介したお寺などは、通常は非公開で、事前に連絡をしないと見学を受け付けてくれない場合があります。見学する場合は、必ず事前に連絡を入れてからにしましょう。

資料に関する問い合わせは、宇都宮市教育委員会事務局 文化課までお願いします。(TEL 028-632-2764)

